

2-16-2 関ヶ原古戦場 ——笹尾山——

西暦 1600 年 9 月 15 日、日本列島のほぼ中央、東西交通の要に位置するここ関ヶ原において、天下分け目の戦いが繰り広げられました。天下の覇権をねらう東軍・徳川家康と、家康の野望を阻止せんとする西軍・石田三成の雌雄を決する関ヶ原の戦いは、この関ヶ原盆地において東西両郡あわせて約 15 万人の将兵の激突となりました。笹尾山は西軍の総大将・石田三成が本陣を構えたところでした。

桃配山

天下を分ける壬申の大いくさは千 3 百年ほどまえであった。吉野郡をひきいた大海人皇子は、不破の野上に行宮をおき、わさみ野において、近江軍とむきあっていた。急ごしらえの御所に、皇子がはいったのは、6 月の 27 日である。野上郷をはじめ、不破の村びとたちは、皇子をなぐさめようと、よく色づいた山桃を三方にのせて献上した。

「おお、桃か。これはえんぎがいいぞ！」皇子は、行宮につくがはやいか、桃のむかえにあって、こおどりしてよろこんだ。くれないのちいさな山桃を口にふくむと、あまづっぱい香りが、口のなかいっぱいひろがる。皇子は、はたとひざをたたき、不破の大領をよんだ。「この不破の地は、山桃の産地であるときく。なかなかあじもいい。どうだろう。わたしはこの桃を、軍団兵士みんなに一こずつ配ってやりたい。戦場における魔よけの桃だ。これをたべて戦場にでれば、武運百ばい。もりもりとはたらいてくれよう。大領、この近郷近在の山桃をすべて買いあげ、軍団兵士みんなに、わたしからの桃だといって、配ってくれ。」大領、宮勝木実は、胸をうたれ平伏した。木実は行宮所在地の大領（郡長）として、御所をたて、皇子をおまもりしている。「ありがたいこととございます。戦勝につながえんぎのいい桃。兵士のいのちを守る魔よけの桃。天子さまからたまわった尊い桃。全軍の兵士はもちろん、村のものたちも、涙をながしてよろこび存分のはたらきをしてくれるであります。」このとき、木実が確信したとおり、この桃をおしいただいた数萬の将兵の士気は、いやがうえにもたかまり、連戦連勝、ついに大勝を果たしたのであった。この桃の奇縁により、この桃を配ったところを桃配山とか、桃賦野とよんで、いまにつたわっている。9 百年のあと、徳川家康は、この快勝の話にあやかって桃配山に陣をしき、一日で、天下を自分のものとした。

説明板より